



# 守口市消費生活センター くらしナビ

## 高齢者の家庭内事故にご注意！

～日常的に使用している身近な製品で大けがや死亡、火災などの高齢者事故が生じています。～

### 事例&アドバイス

～ガスコンロで調理中、着ている服に着火してやけどを負った。～

コンロに寄りかかって調理をしたり、着火しやすい衣服の着用、視力の衰えによる青いガス火が見えにくいことなどが原因です。

起毛の衣服は、生地が空気を含んで燃えやすい状況になれば簡単に着火します。

また、袖口に引火するケースが多いので、袖や裾が広がっている服は避けましょう。

～就寝中に電気あんかで低温やけどを負った。～

体温よりも少し高い温度の製品に、皮膚の同じ部分が長時間触れると低温やけどが生じます。

低温やけどは気が付きにくく、皮膚の深い部分までダメージを負うのが特徴です。

就寝前にあんかで布団を温めておき、就寝時にはスイッチを切ったりタイマーを利用しましょう。

あんか以外でも電気こたつ、スマートフォン、温水洗浄便座でも生じていますので注意しましょう。

～冬場の寒い脱衣場から湯温の熱い浴槽に浸かると急にめまいがして倒れた。～

急激な気温変化によって血圧が大きく変動し、身体に負担がかかるヒートショックが生じたのが原因です。

脱衣場と浴室はあらかじめ温めておき、かけ湯をしっかり行い、温湯は41度以下で長湯をせず、浴槽からゆっくり立ち上がるようにして予防をしましょう。

～カーペットの端や床に置いた物につまずいて転倒した。階段が暗くて転落した。～

筋力や視力が衰えると、わずかな段差でもつまずいたり足元が見えず、転倒や転落事故が起こりやすくなります。

カーペットの端は固定する、居室の動線上には障害物を置かない、階段や段差には手すりや足元にライトを設置して明るくしたり、滑り止めマットを敷くなどの予防策をとりましょう。

家庭内事故が生じて救急車を呼んだ方がよいのか迷ったら「救急安心センターおおさか」『7119』に電話で相談しましょう。



相談専用電話 **6998-3600**

守口市消費生活センター（守口市役所内）

相談時間

午前9時00分～午後4時30分

土・日曜・祝日の相談窓口は、

消費者ホットライン

188（局番なし）